

令和4年度 西武学園文理中学校・高等学校 経営方針

校長 柴田 誠

I 校長経営方針

- 1 本校の重要な使命は、生徒のグローバルな人間性を育むとともに、生徒の資質・能力を伸長させ、希望する進路実現を図ること。

その使命を、実現するために、全教職員が前例にとらわれず、日々創意工夫を重ねながら、最適の教育活動を生徒へ提供する。

- 2 面倒見のいい指導体制を整え、生徒・保護者への適切な情報提供や指導の充実を図る。また、安心して安全な教育環境を提供し、生徒・保護者の学校に対する更なる信頼感及び帰属意識の向上を図る。

- 3 小中高一貫教育の連携及び再構築

小中高の教育活動の接続を新たに見直し、学園の新しく魅力的な教育活動の流れを整える。その為に連絡会を設置し、情報の共有と各校の戦略を構築する。

II 高等学校 重点目標

- 1 41、42期生のクラス編成及び習熟度別授業の定着と充実

- ・早期の文理系分けを止め、高校2年までは幅広く学際的な教育を目指す。
- ・混成クラスを実施することにより、生徒同士の人間関係の構築力を向上させる。
- ・GCPの導入や英語授業をオールイングリッシュで実施するなど、全クラスの英語力の向上を図る。

- 2 進学指導体制の整備

- ・再検討した外部模試等の実施計画の検証と生徒への実施後の指導の充実。
- ・教員の分析力を向上させ、充実した分析会の実施及び面接指導週間の設定。
- ・保護者・生徒との三者面談の実施・充実。
- ・進学指導対策、補習・補講の完全実施とその検証。（夏、冬、直前ゼミと生徒を逃がさない）
- ・大学入学共通テスト及び大学別入試問題の教科内研修の実施。
- ・新入試問題、新制度への対策の教科内検討（過去問を含め、新テスト問題への傾向と対策）。

- 3 教科指導力の向上

- ・教科会による指導力向上対策（Faculty Development）実施。定期的な研究授業の実施。授業内容・方法の改善や補修・補講などの体制の強化を図る。
- ・1、2学年に探究活動を展開しながら、新たな学力に対する教員の指導力向上を図る。
- ・管理職による授業観察を実施する。（年2回）
- ・生徒による授業評価の実施と生徒への還元方法の整備・充実。（年2回）
- ・若手教員に対する育成指導、研究授業実施。
- ・外部教科研修会への参加支援実施。

- 4 生活指導・教科外活動・広報活動の充実

- ・生徒のエリートとしての自律心の育成、生活時間を計画的に活用する意思力の育成。
- ・部活動の活動実態を検証し、適切な顧問配置を図る。
- ・生徒への体罰・いじめアンケートの実施と、教職員への研修会実施。
- ・従来の全職員の広報活動に加え、生徒居住地の塾・予備校への校長の効率的な訪問実施。

- 5 入試広報活動の充実

- ・生徒の学力が伸長している証拠をもって、全員体制で広報にあたる。（証拠が表明できなければ、学校は衰退する。教職員の存在価値はない。学力推移、外部模試、GTEC、英検など。）
- ・中学入試に続き、高校入試においても得点開示を導入する。

- ・安全に配慮しながら、学校見学者数を回復させる。
- ・本校退職の広報担当者を十分に活用する。

Ⅲ 中学校 重点目標

1 組織運営の明確化・効率化・情報公開

企画運営会議は意思決定機関、職員会議は幅広い意見徴収や連絡事項を周知する機関であることを明確に周知し、効率的な学校運営を図る。管理職会議の内容も基本的に職員に公開する。

2 進路指導体制の強化

進路指導部が指導し、成長目標を設定した上で、学力推移調査を年 3 回行い、生徒の学力向上と教員の指導力向上を図る。進路指導部として、生徒に対する目標値を設定公表し、その為に確かな学力をどのようにつけるか、進路指導部が中心となり分析し、学年や教科に改善点を指導する。

3 教科指導力の向上

- ・管理職による授業観察を実施する。（年 2 回）
- ・教科会による指導力向上対策（Faculty Development）実施。定期的な研究授業の実施。授業内容・方法の改善や補修・補講などの体制の強化を図る。
- ・英語教育においては、GTEC や英検を全員必修の受験とし、英語科に到達目標を設定させ、学年経過を計測・分析させる。
- ・中学卒業時に、全員英検準 2 級取得、漢検 3 級取得を目指す。

4 英語教育の指導強化

- ・小学校からの接続を考慮し、英語力上位者には、適切なグルーピングによるハイレベルな英語教育をさらに提供する。
- ・令和 3 年度から導入した、埼玉県では最初のグローバルコンピテンスプログラム（株アイエスエイ、GPI US 協力）を検証し改善実施する。

5 中高一貫教育の在り方を再検証

- ・中学校の教育活動において、将来の若者が必要とする力を育成する新たなプログラムを実行。
 - ①授業改善や新たなプログラム導入。グローバルを謳う本校だからこそ、海外研修だけでなく通常授業の中にグローバル要素を取り入れる。
 - ②先取り学習を再検証し、生徒の学習内容の定着をきちんと実証しながら、各教科のシラバスを高校のそれに円滑に接続させる。
 - ③従来の教育活動を検証することにより、教育内容の定着や成果確認、さらに充実を図る。（卒業論文の在り方、CAの在り方など）
 - ④グローバル精神を育成させるためにも、海外諸国の学習と平行し日本文化の学習にも力点を置く。（全員必修のプログラム設定など）

6 生活指導・教科外活動・広報活動の充実

- ・スマートフォンの自己管理などを進め、自律心や社会性の育成強化を図る。
- ・友好的な人間関係を尊重し、暴力や嫌がらせなどに対して厳格に対処する。
- ・生徒への体罰・いじめアンケートの実施と、教職員への研修会実施。
- ・本来の全職員の広報活動に加え、生徒居住地の塾・予備校への校長の効率的な訪問実施。限りある教職員の人力と広報予算の適性配分を図る。
- ・本校退職の広報担当者を十分に活用する。
- ・他校の新設（開智所沢小学校及び開智所沢中等教育学校令和 6 年 4 月開校）を迎え撃つ、進学実績確保と広報戦略の策定。